

「短期宣教」——華人キリスト者を繋ぐトランスナショナルな宗教実践

モリ カイネイ（立命館大学大学院先端総合学術研究科）

中国に出自を持つ「華人」の社会における宗教は多種多様だが、そのルーツが中国本土まで遡れない、または漢民族の文化的伝統に依拠しない宗教は少ない。プロテスタントその代表的な一例である。そのため、華人であることと信仰の関係を具体的に解明するには、出自や洗礼の有無などのラベルを基に華人信者を分類して研究するのは不十分であり、具体的な宗教実践を通じて考察する必要があると考えられる。本発表は2010年9月から2014年3月まで行った、「中国信徒布道会（Chinese Christian Mission）」というミッション団体が企画・実施する日本への「短期宣教（Short-term mission）」という活動に対するフィールドワークに基づき、このような宗教実践の内容を明らかにし、華人信者のネットワークというトランスナショナルな文脈の形成に与える影響を検討する。

「短期宣教」とは、目的地で長期間に活動する宣教師の派遣事業に対する一種の補助的な活動として位置付けられている。その内容は中国本土を含む世界各地に派遣された宣教師または友好関係にある教会などに訪問し、様々な宗教行事特に非信者への伝道活動を手伝うこと、或いは目的地の社会を知るための異文化体験プログラムなどが多い。交通手段が便利になったため、一般信者が書面報告ではなく、実体験で宣教師および伝道活動への理解を深めることには、宣教師志願者の増加、宣教師または現地教会への物質的、精神的な支援の拡大などの効果があると見なされている。

本発表の調査対象である「中国信徒布道会」の香港オフィスが毎年の夏、神戸の教会の協力を得て実施する「短期宣教」では、若者を中心に募集・選抜した後、4回の事前準備会を経てから来日する。8～10日間の滞在中、協力教会が実施する小学生向けのサマーキャンプに運営スタッフとして参加すること、主日礼拝で説教を担当すること、近所の中国系ニューカマーに伝道すること、市街地を歩きながら祈るという「Prayer Walk」などの活動を行う。帰還後、反省会を行うほか、参加経験者を中心に日本宣教をテーマとする祈祷会を結成したり、各自の教会またはミッション系メディアで経験を分かち合ったりする。一部の教会では、若者が「短期宣教」に参加することが制度化される傾向があり、ミッション系メディアによる情報の共有範囲も拡大していく。

宣教師の仕事および異文化を体験することによって、参加者の中から宣教師志願者が現れることを目的とするこのような活動の本質は、正式な宣教師派遣事業と同じく、非信者を発見し改心させること、即ち信者である自己という基準で他者を創り出すことにある。このような実践の過程では、改心の実現はともかく、非信者に対する他者意識が継続的に生成し、伝播されることになる。即ち、華人信者たちは洗礼や毎週の礼拝などより、積極的なミッション活動を通して獲得した、身体化された経験に基づき、相互間の連携を強めるという視点から彼らのネットワークを考察すれば、それは単純な繋がりではないことが理解される。「短期宣教」を中心とするトランスナショナルな宗教実践によって中国本土や移住先の各社会などを他者化する可能性に大きな意味がある。